

## 南田中図書館 図書館利用者懇談会

- 1 日時 令和4年11月5日(土) 13時30分～15時
- 2 場所 南田中図書館 2階 会議室
- 3 参加者 利用者 7名  
図書館 2名  
(南田中図書館長、館長代理1名)
- 4 テーマ 「南田中図書館に期待する図書館サービス」
- 5 配布資料 (1)令和4年度実施事業実績一覧  
(2)これからの図書館構想(素案)の概要  
(3)図書館だより最新号  
(4)近日開催予定イベントチラシ
- 6 次第 (1)南田中図書館長挨拶  
(2)図書館職員紹介  
(3)参加者自己紹介  
(4)図書館事業紹介等  
(5)南田中図書館長挨拶

### 南田中図書館利用者懇談会 会議録

#### 1. 南田中図書館長挨拶

本日は、南田中図書館利用者懇談会にお越しいただきありがとうございます。南田中図書館館長でございます。

利用者懇談会では、練馬区立図書館全館で10月27日から11月9日の読書週間に合わせて各館の館長が主催する懇談会を行い、地域のご意見やご要望を伺い、図書館で協議しまして、ホームページ等で改めて皆様にお伝えするものとなっております。光が丘図書館のみ今年度は11月19日(土)に実施予定です。今回南田中図書館では「南田中図書館に期待する図書館サービス」というテーマで懇談会を行いたいと思っております。南田中図書館について懇談していただく場という事で、館独自で答えられないような、区立図書館全体に関する事についてはお答え出来ない場合がありますのであらかじめご了承ください。その際は、統括しています光が丘図書館と調整して、ホームページで回答させていただく予定です。また、よろしければ11月19日に行われます光が丘図書館での懇談会にご参加ください。よろしくお願いいたします。

#### 2. 図書館職員紹介

館長代理 1名

### 3. 参加者自己紹介

### 4. 事業紹介等

### 5. 懇談

**利用者** 学校図書管理員に変わったと聞いたがこの学校図書館管理員というのはどのようなことをするのか。

**図書館** 業務委託の形で各学校図書室に週 2 回程度入っている。具体的には先生方の調べもののお手伝い、図書の授業における児童・生徒への指導、あとは休み時間等での本の貸出しや図書委員さんへの指導などを行っている。これまではこういった仕事を公共図書館に所属するスタッフが週に 2 回ほど一つの学校に対して出向いて対応していたところを今年度からは管理員という、公共図書館に属していない方が直接各学校に支援しているという形になっている。

**利用者** 司書みたいな仕事をなさっているのか。

**図書館** そうです。

**利用者** こちらのほうはもう関わらなくなってしまったということか。

**図書館** 学校の図書室に直接関わるということは無くなったが、学校から希望があった際の本の貸出しや授業支援については引き続き行っている。

**利用者** 学校がこんなに近いのだし学校に来た人が図書館に行けばいるということは子どもたちにとっても親しみを覚えると思うのでこういうことは続けてほしい。

**図書館** 先程も説明したが、調べる学習授業については今年度から実施しているが、昨年度までは学校の方で支援員が実施していたが、今年度から図書館のスタッフが先生となって図書館で授業する形で行っている。やはりここで授業をしてお話をしているので図書館にいらっしゃる児童さんが、「この間授業をしてくれた先生だ」と声をかけて頂くこともあるということを知っている。そういった形で引き続き交流をもって、親しみを持ってもらえるようにしていけたらよいと考えている。

**利用者** 中学生の図書館の利用はどうなのでしょう。

**図書館** 休みの日に青少年コーナー等で勉強している姿を見かける。小学生に比べたら来館している数は少ない印象はある。ユースサポーターの活動には、中学生、高校生がメインに活動されていて、もともと中学生、高校生の時から参加していて大学生になったという方も数名入っていただいている。今年度は中学生の参加がとて多く中学 1 年生、2 年生の方も多く参加されていて現在全体で 9 名になっている。中学生だけで 4~5 名、高校生が 3 名。大学生以上の方もいて、活動に入ってもらい、5 月と 11 月にビブリオバトルを体験しようというイベントがあるが、こういったイベントもユースサポーターのメンバーが中心となってイベントの内容自体を企画している。11 月のビブリオバトルに関しては 2 階に掲示しているポス

ターをユースサポーターのメンバーが作成した。大人の目線では気づけない同世代の意見を取り入れながら青少年コーナーの特集の本を選定してもらったり、蔵書の選書についても意見を聞かせてもらったりといったことを行いながら今後中高生の来館者数を増やしていく努力はしていきたいと考えている。

**利用者** 電子書籍が普及して、活字離れがすすんでいる。本当は文字のものを読んでもらいたいと自分は考えており、こんなに近くに図書館があるのにいつも思うのでもっと中学生とか高校生が本に興味を持ってもらえたらよいないつも思っている。利用者が増えてくれるといいですね。

**図書館** 引き続き図書館のほうでも各学校に直接呼びかける形で取り組んでいきたいと思っている。

**利用者** ビブリオバトルは一般の人の参加を募って行ったものですか。

**図書館** そうです。

**利用者** 何人ぐらい参加されたのでしょうか。

**図書館** 5月に行ったビブリオバトルは、今、手元に資料が無いので確実な数字ではないがおそらく2名か3名の参加であったと思う。

**利用者** 11月はこれからでしょうか。

**図書館** そうです。今、参加者を募集している段階です。

**利用者** YA イベントでやっているビブリオバトルを体験しようは小学生もしくはそれより下の子またその保護者の参加が多かった。YA のイベントとして行っているが、思ったより年齢層が低くなってしまっていて、それ自体は悪いことではないが、結果そうなっていて、ユースサポーターのメンバー以外の中高生をビブリオバトルで見たことが無い。小学生向けから中高生向けそして大人向けという形で分かれているとは思いますが中高生が参加できるイベントが少ないと感じている。ユースサポーターの活動以外でこちらのイベントで参加したことがあるものというのと南書会というものがあるが、その程度だなと感じていて、中高生が参加できるものがもう少しあると良いなと感じた。ユースサポーターのメンバーも中高生なので、同年代としていいこともあるのですが、逆にうまくいかないこともあって、それに対して図書館側からこういうことが出来たらいいなと示してもらえたら私たちも考えやすいと思うし、やってくださるなら私たちががんばるので、中高生向けの層に向けたイベントが増えるといいなと感じた。

**図書館** たしかに今、中高生だけに向けたイベントというものは実施していないが、児童向けは完全に小学生以下を対象にしているが、一般イベントに関しては、大人の方だけを対象にしているというよりは、お子さんも参加できるし、大人の方も参加できるし、という形で実施している。今、お話にあった南書会もそうであるし、環境に関するイベントも中高生が参加できるような年齢設定にはなっているが、なかなか参加は少ない。今年度実施したものではありませんが、8月の南田中図書館1

日ラジオ放送局は昨年度以前に中高生の参加があった。一般向けというイベントに中高生も対象として含まれているということ、該当の中高生がなかなかそのようにとらえていないという可能性もあるので、中高生だけ対象というイベントも検討していきたいと考えている。先程話にもあった、ユースサポーターの活動の中で、こちらからこういったイベントもどうかということ投げかけていきたい。

**利用者** 例えば、南書会などのチラシがあると思いますが、それが結構大人っぽい印象を受ける。ビブリオバトルなどのチラシと比べると落ち着いた印象で、中高生がこれは大人向けのイベントなのではないかと懸念をいだいてしまうということもあるのではないかと感じてしまう。これは、南田中図書館にだけということでもなく、私は普段別の図書館へよくいく機会があり、そういうところでもやはりそうなのですが、本について話す会とかになるとやはりテーマを定める関係上、かなりしっかりしたものが多くて、そうなってくるとそのテーマに興味がある人しか結果的に参加しようということになっていない。どこの図書館でもそうですが、一般だけども中高生もきていいよという姿勢だったとしても中高生はあまり見ていないのではないか。そこは難しいところではありますが、このイベントは参加者の年齢層を広くとっているんだよというところをもっとだしたらいいのではないのでしょうか。

**図書館** ご意見を参考にし、今後、広報の仕方についても工夫する。

**利用者** 中高生のイベント参加についてはこれまでの懇談会でも良く出てきている問題だと思うが、南田中図書館だけというわけではないと思うが、ご高齢の方と幼児とその保護者というように利用者が 2 極化しているのかなと感じている。図書館を利用するという習慣そのものが、今の中高生にはないのかもしれないなど言う話もある。イベントありきで中高生の方という風になるのか、本来的な使い方での中高生の利用ということ考えたほうが良いというのもあり、単発のイベントの集客ではなく、そもそも中高生は図書館に来ていない。図書館に来ていなければどこに行っているのだろうかということ考えた方がよいのかもしれない。南書会については貴重な意見ありがとうございました。参加要件に中学生以上と明記はしているが、チラシについては当初に比べるとだいぶポップにかなり柔らかくしたつもりなのですが、もう少し柔らかくしてもいいのかなと感じる、次はマンガというテーマなので、来てもらえると嬉しい。

**利用者** 町会に入っていると、毎月児童館の案内や中学校、小学校のスケジュールなどが回覧板で入ってくる。図書館だよりなどを回覧板で回覧したら、もっと地域と繋がれるのではないか。

**図書館** 町会の回覧板については、イベントのチラシを年に数回程度入れることはあるが、毎月は入れていない。図書館だよりに関しては現段階では、回覧板に入れることは現実的ではないが、当月と翌月のイベント情報を載せている 2 か月カレンダー

一というものを館内で配布していて、そちらなら回覧板に入れられる可能性がある。回覧板を入れる際も一定のルールがあるのですぐにできると確約はできないが、単発のイベントのチラシを入れると、やはり参加率が上がったり、今まで図書館を利用されてなかった方が参加されたり、といった傾向もあるので、頂いたご意見を参考に、定期的に回覧板で回覧できないか検討したい。

**利用者** 館内の1階のところだとチラシの量が多くて見るのが大変な時がある。だったら南田中だけに絞って回覧すると目につくのではないか。毎月じゃなくて季節ごと等でもいいので地域のつながりとして行ってもいいのではないか。もしかしたら、中高生層の目に留まって行こうかなと思うかもしれない。

**利用者** ユースサポーターに昨年度と今年度に中学生がたくさん入ったことのきっかけが学校でチラシを配ったことだった。学校でもらったチラシを子供たちが家に持って帰って家族に見せた時に「あなたやってみたら」と親御さんから勧めてくれたということがあったので、「やってみたらいいじゃん」と背中を押してくれる人がいるところで宣伝をした方がいいのかなと思った。小学生までは親御さんが連れて行った方がいいよねと連れてきてくれるが、中高生はそのようにしてくれない。ただ親御さんがやってみればと言ってくれば興味がある子は参加してみようという気になるのではないか。これは偏見かもしれないが本が好きな子は引っ込み思案であり積極的ではない子が多いと思うので、自分からやってみようというよりはだれかがやってみたらいいんじゃないと言ってくれた方が物事は進むような気がする。先程中高生向けのイベントをやってほしいと言ったが、なぜやってほしいかという、学校図書館の方が便利だから、そちらに学生さんは言うてしまうのかなと思っていて、私は実際小学生の時に小学校の図書館がいろんなものがあって普段本が読みたいと思うと学校図書館に行っていた。中学になってから、中学校が遠かったのもあり、わざわざ本のことで行くのが大変だなと思い、南田中図書館を利用し始めたという経緯がある。なので、学校図書館でしていない何かがあれば結果的には図書館があるんだな、図書館に来られるなという印象がつくのではないか。

**図書館** 確かに今までどうしたら学生さんに情報が届くかを考えたことはあったが、なかなか背中を押してくれる場所というところに注目して案内するということがなかったので視点なので、そういったところも考えていきたい。たとえば、こういう場所というところはありますか。

**利用者** 私は、ユースサポーターに参加してみて、図書館司書同士が本の話をしていて、自分の好みの話をしているのを聞いたことがある。学校の先生もいろいろな話をしたりして親しみをもったりするので、もう少し施設の職員に親しみがもてれば、今日はこの人と話そうじゃないけど、利用につながるのではないか。

**図書館** 担当スタッフとも話をしてみて、どうやったらそういう関係性もてるのかも

検討したい。

**利用者** 我々主催の環境イベントを夏に行った際に、全小中学校にチラシを配ったら蓋を開けてみると、小学生の参加は多かったが、中学生は少なかった。一人1枚ずつチラシを配ると、やはり親の方がチラシを見てこれ行ってみようかとかいうことで多くの方がいらっしゃった印象がある。ただやはり中学生というところがなかなか難しい。実は今年のこどもエココンクールは中学生の応募が非常に多かった。去年と比べて20%ぐらい増えている状況で、各学校でも相当増えている。イベントに来ないのにこういうのには来るのだなと感じた。どうしてこのような結果になったのかは、今、分析していてまだ答えは出ていないが、おそらく今、環境ってテレビをつけてもSDGs関連のことをやっていたりと色々な所で言われている。若い人がSDGsのサポーターになったりとかやはりそのあたりが小学生だとちょっと難しくて、中学生だと今のはやりもあるかもしれないが、環境というところがひっかかりやすいのかなと感じている。そういったこともあって中学生がたくさん絵をかいてくれたのかなということもある。このエココンクールは続けていければいいなというところもあるが、それ以外にも中学生の来館者を増やすという点で、もうやられているとは思いますが、環境のイベントの部分をもうちょっと厚くしていくというのも元々ここは環境の図書館だというイメージがあるので中学生や高校生が勉強にもなるし、楽しく環境について学べる図書を紹介するようなコーナーやイベントなどを増やしていくと意外と参加率があがるのではないかな。うちのほうでもイベントを行っているが、今回は南田中図書館と都合が合わなかったが、イベントの中で図書館ブースを設けて、タブレットを使って、環境に関する本を紹介するとかで図書館に足を運ぶことにつながるようなイベントになるといいなという構想もでていた。今年はできなかったが、是非来年度協力し合えたらと思っている。

**利用者** 環境のことはいま、すごく注目度も高く、授業とかでも考えることが多いので意識を持っている子はすごくいると思う。それと何かを考えてる子も多いと思う。それと同じくらい、ずっと言われているなと思っている子もいると思う。コンクールやイベントもやりたい人がやっている印象がある。やりたい子に向けてイベントをいっぱいやるというのものもあるがそればかりやっていると図書館ってそういうことやる場所なんだというイメージがついてしまうので増やしすぎるのも良くはないんじゃないかと思う。なんでこのような話をするかという、図書館で発行している青少年向けのおすすめ本を紹介している「コンパス」について、なにか意見があるかとユースサポーターの活動中に聞かれたことがあって、それについて、昨今のLGBTやSDGsなどの考えるべき問題について扱った本が多かったのに対してやりすぎだという意見があった。その本については面白いから私たちに読んでほしいと思っているのか、共感として知らせたいから読んでほしいのかどうか分

からないという意見も出ていた。本を読む子たちの中でもそれはほどほどにしてほしいという声もあったので、そのあたりのバランスは見てほしいと思った。図書館は本がいっぱいあって環境のことというのは本と相性がいいと思うので、意味深く興味深いことだとは思いますが、中高生向けにという視点で見られるとどうだろうとは思っている。

**図書館** コンパスの件に関して今の件に補足すると、ユースサポーターの活動に参加している学生が、コンパスに載せる本をどういう本が良いかという話を図書館のスタッフがしたときに、書いてある本がダメだとは思わないけど書いてある本を見て私たちは読みたいって思わない。硬いものが多い気がする。もっと単純に面白い本というのも載せてほしいという話があったということは聞いている。やはり図書館って楽しいことをしているんだなと思ってもらうイベントがあるといいなというところにつながるのではないかなと感じている。たとえばLGBTや環境について伝えるってことももちろん大事だが、それプラスアルファにただ単純に楽しいなって思えるものを知りたいという感情も中高生の意見として本音としてはあるのかなということは感じた。だからといって図書館と何もつながりがないただ楽しいだけのイベントというものを実施するのはなかなかハードルが高い部分も有ったりするので、難しいところではある、環境がテーマであったとしても楽しんで参加して頂く、例えば、絵を描くということは楽しいことだし、そのテーマを環境にするというようなことで環境とつながりが出来たりするようなことであるので、南田中図書館の本であったり、南田中図書館のテーマが環境であるので、それでわくわくできるようなものが出来たらいいと思う。これから来年度の事業を考えるとところでもあるので、考え方として参考におきながらやっていけたらよいと考えている。

**利用者** 図書館の中に勉強するスペースはあるのか。

**図書館** 中高生の優先席というものが2階にある。コロナ禍で座席数を減らしているのので、今は4席が優先席という形になっている。一般の方の利用はほとんどなく、中高生の方が優先なので、一般の方が使用していたとしても、中高生が来たら譲っていただくという流れにはなっている。児童に関しては、児童書架のほうに児童の専用席を設けている。そちらも数を減らしていて現在5席としている。中高生に関して言えば2階の優先席が満席であったとしても1階の閲覧席が申込制にはなっているが、利用できるようにしているので1階の閲覧席をいれるとプラス15席程度利用できる状況である。

**利用者** 中高生は、受験期になると好きな本を読めずに勉強ばかりするようになるが、家では集中できないという娘に図書館に行って勉強したらと言ったところ、娘から、図書館は混んでいて座れないし、そもそも図書館では勉強してはいけないと言われたと聞いた。こちらはどうなのでしょう。

**図書館** 確かに、図書館の閲覧席に関しては図書館の資料を見て頂くための席ということになっている。現状としては、学校の宿題をされているなどというのがあっても注意はしていない。

**利用者** たしかにその時期は勉強だけかもしれないが、通える場所、居場所として開放されていると思ったら、受験が終わったら解放感と共に今度は楽しい本を探してみようという通いなれた場所であるからこそというものがあるかもしれない。自分も今、資格の勉強のために図書館に通っているが、資料を見に本棚へ行くと面白そうな本がたくさんあり、試験が終わったら、あれもこれも読みたいと思いながら勉強している。場所の問題もあるかもしれないが、居場所としての図書館というものも考えてもらいたい。

**図書館** 練馬区であれば、関町図書館にグループ学習室というものがある。南田中図書館は館の規模が小さいので、専用スペースを設けることがなかなか難しい。

**利用者** コロナの前は会議室も使えていたんですね。

**図書館** コロナ禍の前はこちらの会議室も閲覧席として開放していたが、コロナ禍以降開放はしていない。夏休みの土日だけ開放をしている。現在のところ、座席の消毒等スタッフの目が行き届かないので、開放をしていない状況である。今後開放に向けて検討はしていく。

**利用者** 南書会について尋ねたいのですが、今度のテーマはマンガとうかがいましたがどのような会なのでしょう

**利用者** 図書館とマンガというテーマで、図書館にもマンガが所蔵されているのですが、もっとこういうマンガを置いてほしいとか図書館にふさわしいマンガというのはあるとしたらどういうものだろうか等、図書館とマンガというつながりで自由に話をさせていただくという会。持ち物は、任意でこれが私の図書館においてほしいマンガですというものをもちいただくのもいいですし、手ぶらで、人の話を聞くだけということでも大丈夫です。図書館とマンガという普段だとあまりセットで考えにくいような事柄をみんなで一緒に話そうよという会です。

**利用者** 基本的に図書館にはマンガについてこれはおいていいとか、おいてはいけないとかある程度はありますか。

**図書館** マンガに限らず、すべての本の選定についての基準がありますのでその基準に沿って収集を行います。マンガに関しては、今手元に資料がないので詳しいことは言えませんが、南田中図書館自体にはあまりマンガの所蔵はなく、練馬区全体でいうと、「ワンピース」のようないわゆる少年コミックに載っているようなものも図書館の中には取り扱っているものもありますし、手塚治虫であったり、ドラえもんであったり、そういった昔からのマンガも置いてある。マンガに関しては、割とどの自治体も幅広く取り扱っているという傾向がある。

**利用者** 南書会の時には図書館の方も参加されるのか



**利用者** はい。スタッフの方が2名参加している。さきほど、他の方から似たような話があったかもしれないが、図書館スタッフの方が話をする機会というのは日頃あるようではなく、南書会でも図書館スタッフの方も一市民として、一読書家として、本好きとして、主催者ということではなく、自由に話をしていて、普段本の貸出・返却などでしかやり取りの無いスタッフと話しをする機会ということでも貴重かなど。

**利用者** そういうところで会うと、こういう本が好きなのかとか感じるし、普段の貸出・返却などでも親しみがもてる。

**利用者** 南書会は本当にいろんなテーマで自由に話してもらっているが、何でも自由というわけではなく、図書館で話をしてもらうので、本のことやある作家さんのこと、読書習慣、読書スタイル、図書館利用といった事柄の中から色々なテーマを設定している。そんなに固いテーマじゃなく、柔らかく自由に話をしていこうという趣旨。以前、職場体験でいらした中学生が、南書会に参加して頂いたことがあったが、周り自分より年上の大人の方やひょっとしたら、おじいちゃんおばあちゃんのような年の方たちが多かったが、それでも自由に話をしてくれた。年の差や立場といったものを超えて話をしたのだが、いろいろな年齢や属性の方と話しをするのはいいなあと思う。

**利用者** いっぱいおはなし会などをやっていただいています、このお部屋でも、ミニシアターのようなものはできないのか。

**図書館** 映画会のようなものですか。

**利用者** 映画というよりも絵本に付随する物なのですが、「ひとまねこざる」とか「ピーターラビット」のような絵本に付随しているアニメだったり、少し前にテレビで絵本の読み聞かせの映像みたいなものがあったりしたが、音と視覚とが両方あった方が入りやすい、音楽が流れながら物語が進んでいくといったものの方が入りやすいという子もいるので、あまり長くないものを、2本とか3本とか、そういったものをミニシアターのようなものであると、なかなか本だけでは見ることが出来ないお子さんでも見ることが出来るのではないかなと思っている。自分の施設でも、映画館にはなかなか行けない子が多いので、その練習も兼ねて、土曜保育でミニシアターみたいな形で年に何回か行っている。そういったことを図書館でもやっていただけたら、こちらも、行ってみようよとか、ご家族で行って見たらなどと伝えることが出来る。

**図書館** 毎年12月に子供向けの映画会というものは実施しており、原作本があるもので行っている。午前中は小さいお子さん向けという形でやっているが、それでも60分ほどの長さの映画になってしまうので、もしかするとなかなかじっとしてられないとか、つい言葉を発してしまう等というようなお子さんがいる家庭だとなかなか参加しづらいかもしれないというのはある。ちょっと短いものを何本か上

映すとか、声を出してもいいですよとか、コロナ禍ということはあるのですが、映画館で昔あった応援上映のような、あえて声を出しても、動いても大丈夫なように設定したミニシアターといったようなことができないか検討したい。

**利用者** 一階にあるサイネージには動画などは流せないのでしょうか。

**図書館** 機能的には動画も可能。

**利用者** イベントなど南田中図書館に関わりのある団体の人たちの顔が見えていないというのがあるので、たとえばああいったところでイベント告知をポスターだけではなく、こういったイベントをやりますや、我々はこういった形で南田中図書館と関わっていますといったような内容を、関わっている方の肉声を30秒ぐらいいいので動画を載せられないか。顔が見える発信というのがあるとよいなと常々思っていた。図書館は静粛でなければならないといったところからだんだんと変えていく時代なのではないかなと思っていて、いつも垂れ流しているわけではなく、一日に何回か柔らかいタッチで、イベントの話だけではなく最近の読んだ本とか、こんな図書館の使い方を発見しましたといったような、さきほど、背中を押してくれる存在という話があったが、せめて声だけでもあると、老若男女問わずポスターだけではなく動きのある情報でみることができると、講師がこういう顔の方でとかこういう声なのかということを知ってもらえるので、そういう発信ができればいいとおもっている。

**図書館** この頃は、サイネージをなかなか活用できておらず、コロナ禍になってからは、コロナの注意喚起しかサイネージに表示していなかった。ようやく最近イベントのチラシを表示するようになった。たしかに、難しい部分もありますが、講師の顔が見えるというところは、つい最近別の図書館でイベントポスターをみて思ったのですが、講師の顔が分かるポスターは文字や絵だけのものに比べて、参加してみようかなと思うところがあり、顔が見えるということは重要なかなと感じた。動画を流すとしても皆さんからご協力いただけるかというところもありますが、考えてみたいと思う。

## 6. 南田中図書館長挨拶

時間となりました。皆さん本当にたくさんのご意見をいただきありがとうございました。皆さんからいただいたご意見を来年度以降の図書館運営業務についていろいろと検討してくる材料として参考にさせて頂きたいと考えております。本日は貴重なご意見ありがとうございました。